短　　　報

北アルプス山麓でタニガワモクメキリガを採集

宮　田　　渡

長野県木曽郡南木曽町読書　蘇南高等学校

Brachionycha permixta Sugi タニガワモクメキリガは群馬県から記録されたヤガであるが，北アルプス山麓の白馬村でも採れていたので報告しておく．

この標本は，私が“白馬村昆虫誌第1集，白馬村の蛾(1965)”の図版に *Brachionycha* sp. として発表したものである．1973年1月の日本蛾類学会総会のおりに，杉繁郎氏に同定を依頼し本種と判明した．採集地は白馬村としてはもっとも低標高の地である．

採集データ：1♂，14. VI. 1964，長野県北安曇郡白馬村（標高 630 m），通（カヨウ）発電所ダム水銀灯．
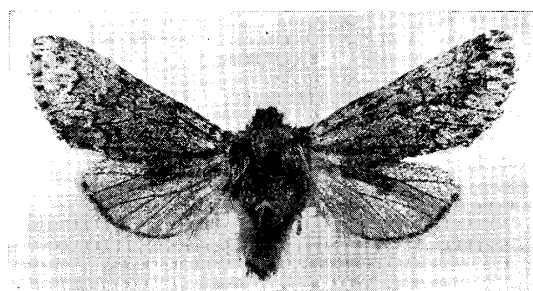
Fig. 1. *Brachionycha permixta* Sugi タニガワモクメキリガ，♂，長野県北安曇郡白馬村産．

西部ジャワ地方におけるギンモンウスキチョウの大移動

山　田　義　孝*

大阪市阿倍野区北畑3—12—47

Migration of *Catopsilia pomona pomona* Fabricius in West Java

YOSHITAKA YAMADA

ギンモンウスキチョウの大移動は，筆者が西部ジャワのバンドン市に住んで約1年半の間に初めて見たもので，1973年1月7日より始まり，1月28日頃まで22日間，連日，東から西へ，ときに北東より南西へ移動し，その概数は四千万頭と計算した．

この数の根拠は，バンドン市付近では雨期といえども午前中は晴天で，午後になって曇りだし，3時頃から雨が降りだすという状態を連日くりかえしており，本種は午前8時頃から午後1時頃までの間つぎつぎと移動していたが，平均して数の多いのは午前9時より正午までの3時間であった．

筆者は1月10日，午前9時，10時，午後1時の3回，自動車を使っていろいろと調査してみたが，この最盛時間帯には 100 m の距離のうちを1分間に3，4頭または5，6頭ずつの集団で合計約50頭が通過して行き，これが2 km の幅で続いていた．

---

* 現在　インドネシア共和国（ジャワ島）バンドン市在住．

このことから，

50頭（1分間 100 m ごと）×2 km×3時間＝180×10^4 頭（1日総数）×22日＝3960×10^4 頭

という数が得られた．しかし，実際には調査時間外にもかなりの数が移動していたようであり，五千万頭を超えるかも知れない．

この移動集団の発生地を知るべく東へ車を走らせたが分らなかった．また行き先を知るべく西へ車を走らせたところ，バンドンの西 90 km のプンチャック，チボダス，ゲデ山付近で数は約5～6割減，180 km のジャカルタ付近では9割減のわずか1割あまりが飛んでいるのみで，他はどこかへ姿を消してしまった．

この移動集団でとくに興味深いと思われるのは雌雄の割合いがほぼ同数であったということで，何度か時間をかえて採集してみたが，その割合いに大差はなかった．

本種のジャワ島における大移動の記録は，C. B. Williams の The Migration of Butterflies (1930, Oliver & Boyd, Edinburgh) によれば，1883年以降数年間隔で記録されているが，そのいずれもが雨期で，とくに1月の記録が圧倒的に多い．

最後に，文献などいろいろと便宜を与えられた若林守男氏に深く感謝する．